

高砂地区開発協議会ニュース

第4号 平成21年1月

発行元：高砂地区開発協議会
会長 半沢 勝正
協力：葛飾区 都市整備部
電話：5654-8344

鉄道立体化にあわせた 「高砂駅周辺のまちづくり報告会」 を開催しました！

昨年の10月25日(土)、高砂地区センターで『鉄道立体化にあわせた高砂駅周辺のまちづくり報告会』を開催しました。

報告会では、まず高砂地区開発協議会の活動内容やまちづくり勉強会・委員会の活動内容、まちづくりの今後の進め方について報告し、休憩をみんなでフラダンスの披露と小学生絵画コンクールの表彰式、最後に質疑応答を行いました。



協議会会長あいさつ



協議会役員による活動報告



地域イベント（高砂ハイビスカスの皆さん）

高砂地区開発協議会では、開かずの踏切解消に向け、京成高砂駅から江戸川駅間の連続立体交差事業の推進と、それに併せたまちづくりを推進するため、様々な取り組みを行っています。

特に、成田空港と羽田空港の中継駅となる高砂駅、加えて現在建設中の新東京タワーや柴又などの観光にも乗換駅となる高砂駅が重要になります。

そこで今回、地域の皆様に協議会の活動内容やこれまで協議会で検討してきた「まちづくり基本構想（案）」についてご報告する会を開催いたしました。

協議会では、こうした取り組みにできるだけ多くの方々に参加していただくため、ニュース等を通じて情報提供を行うとともに、住民まちづくりアンケートを実施して、地域の皆さま方のご意見をお伺いし、基本構想を地域の共通な理解にしていけるよう努めてまいります。

今後とも高砂地区開発協議会の活動に対する、皆さまのご理解とご協力をお願い致します。

高砂地区開発協議会会長 半沢 勝正

高砂地区開発協議会 の活動について



第1回総決起大会（平成14年8月）



東京都の踏切対策基本方針に位置づけ
（平成16年6月）



鉄道立体化を促進する住民総決起大会
（平成17年10月）



約13万人の署名と立体化の要望を国・都へ提出
（平成18年8月）

【高砂地区開発協議会の発足】

高砂駅付近の踏切は京成本線や北総線、金町線の3線が合流しているため、朝晩のピーク時間帯には50分以上も閉まっている「開かずの踏切」です。鉄道による地域分断や踏切による交通渋滞など、私たちの生活にとって大きな問題となっています。

平成13年12月に平成22年開業予定の成田新高速鉄道の高砂駅乗入れが報道されました。これにより、高砂駅周辺では踏切の遮断時間がさらに増加するなど、影響が懸念されています。

そこで、平成14年4月、京成高砂駅周辺の町会・自治会及び商店会の9団体で構成する「高砂地区開発協議会」を発足し、駅周辺の踏切解消に向けた広範囲な運動を行っています。

【高砂地区開発協議会のあゆみ】

●平成14年

- 2月 発起人会を開催。
- 4月 高砂地区開発協議会が9団体にて発足。
- 6月 石原都知事に踏切解消の要望書を手渡す。
- 8月 高砂中学校で踏切解消に向けた第1回の総決起大会を開催。（写真①）
- 11月 東京都議会に署名簿と請願書を提出。葛飾区議会にも請願書を提出。

●平成16年

- 3月 高砂地区開発協議会ニュース第1号を発行。
- 6月 東京都が策定した「踏切対策基本方針」の中で「鉄道立体化の検討対象区間」20区間の1つに高砂を位置づけ。（写真②）
- 10月 第2回目の総決起大会を開催。

●平成17年

- 7月 高砂地区開発協議会の下部組織「まちづくり勉強会」を発足。
- 9月 江戸川区北小岩地域と一体となった京成本線立体化促進住民協議会を設立。
- 10月 「京成本線立体化を促進する住民決起大会」を開催。（写真③）

●平成18年

- 7月 高砂地区開発協議会の下部組織「まちづくり委員会」を発足。
- 8月 「京成本線の鉄道立体化事業の早期実現に関する要望書」と約13万名の署名を国土交通省、東京都に提出。（写真④）
- 10月 「京成高砂駅南側にエレベーターの設置を求める」要望書を葛飾区、京成電鉄へ提出。（写真⑤）
- 11月 高砂地区開発協議会ニュース第2号を発行。

成田新高速鉄道とは？

「成田新高速鉄道」は、都心と成田空港を30分台で結ぶ世界基準の空港アクセスの利便性を実現するために整備が進められています。しかし、北総線を経由して京成高砂駅に乗り入れるため「開かずの踏切」の問題が、より深刻になってまいりました。



高砂駅南口のエレベーター完成
(平成19年10月)



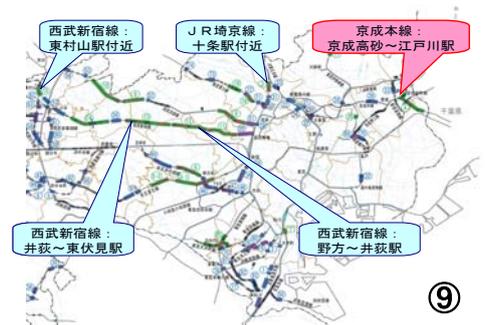
鉄道立体早期実現化の要望書を提出
(平成19年3月)



東京都に早期事業化の要望書を提出
(平成19年12月)



高砂1号踏切付近に設置した横断幕
(平成20年4月)



事業候補区間に位置づけられる
(平成20年6月)

●平成19年

- 3月 「成田新高速鉄道開業に伴う京成本線の鉄道立体化早期実現を求める」要望書を東京都、京成電鉄に提出。(写真⑥)
- 7月 まちづくり委員会で事例視察(狛江・喜多見・練馬)を実施。
- 9月 高砂地区開発協議会ニュース第3号を発行。
- 10月 京成本線立体化促進住民協議会総会を開催。
- 11月 「京成本線京成高砂駅～江戸川駅付近の鉄道立体化を求める」請願書を葛飾区議会、東京都議会へ提出。
- 11月 まちづくり委員会で事例視察(押上・曳舟)を実施。
- 12月 「京成本線の連続立体交差事業の早期事業化を求める」要望書を東京都、国土交通省に提出し要請。(写真⑦)

●平成20年

- 4月 「京成本線の連続立体交差事業の早期事業化」を訴える横断幕を駅踏切付近に設置。(写真⑧)
- 4月 まちづくり委員会で事例視察(金町)を実施。
- 6月 「鉄道立体化の検討対象区間」20区間のうち7区間を事業候補区間に位置づけ。この中に「京成本線京成高砂駅～江戸川駅間」が選ばれた。(写真⑨)
- 8月 まちづくり委員会で事例視察(日暮里・舎人公園)を実施。
- 10月 鉄道立体化にあわせた「高砂駅周辺のまちづくり報告会」を開催。
- 12月 まちづくり委員会で事例視察(小田急相模原・経堂)を実施。

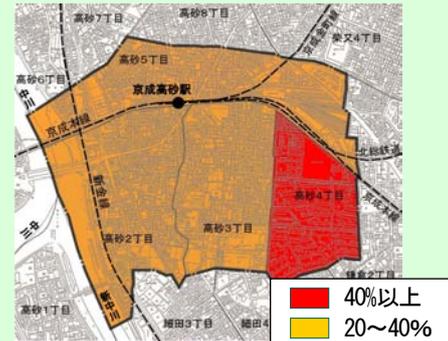
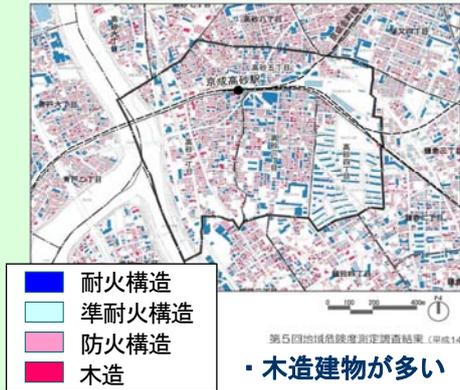
まちづくり基本構想 (案) ができるまで

鉄道立体化の事業採択を得るためには、地元住民の熱意とともに、立体化にあわせたよりよいまちづくりを図っていくことが求められています。高砂地区開発協議会では平成17年度からまちづくり勉強会・まちづくり委員会を組織して、高砂にふさわしいまちづくりについて検討してきました。

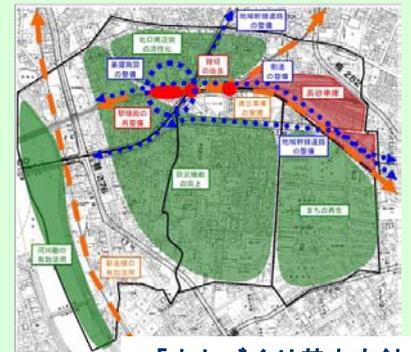
【平成17年度の検討】

高砂駅周辺の現況整理を行ったあと、まち歩きを実施して、まちの問題点・課題を整理しました。1年間の活動の最後に、それらの結果を「まちづくり基本方針」として取りまとめました。

● まちの現況把握



● まち歩きとまちの問題点・課題の整理

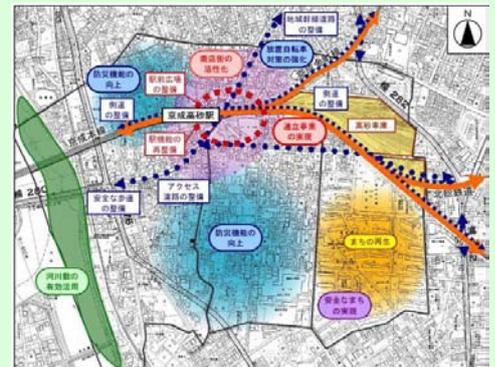
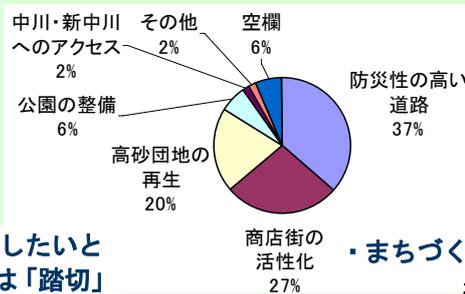
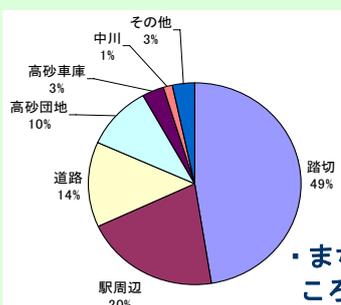


※詳細については協議会ニュース2号に掲載

【平成18年度の検討】

高砂2～5丁目にお住まいの方々(約6000世帯 回収率21.7%)を対象としたアンケート調査では、鉄道立体化や駅施設の改善、安全な道路の整備などに対する期待が、非常に高いことが分かりました。

- まちの現況と位置づけの把握
- 交通量調査
- まちづくりアンケート調査
- まちづくり基本構想の基本的な考え方の取りまとめ



※詳細については協議会ニュース3号に掲載

【平成 19 年度の検討】

今後の検討に役立たせるために駅前広場や広場につながる道路、車庫のあるまちづくりの先駆事例を視察し、その内容を踏まえて、高砂駅周辺における駅前広場や広場につながる道路について、必要性を認識した上で検討しました。

さらに鉄道立体化に伴う高砂車庫の位置関係について、鉄道の専門家から模型を使って説明を受け、車庫のあるまちづくりについても検討を進めました。

まちづくり委員会では、これまでの3ヶ年にわたる検討結果をとりまとめ、次頁にあります高砂地区の「まちづくり基本構想（案）」を策定し、開発協議会に報告しました。

● まちづくりの事例視察



・上部を公園として整備している小田急喜多見車庫



・鉄道立体化にあわせてまちづくりを行っている曳舟駅周辺地区



● 高砂のまちづくりの検討

- ・ 鉄道の立体化と駅前広場
- ・ 駅前広場と道路網
- ・ 車庫のあるまちづくり

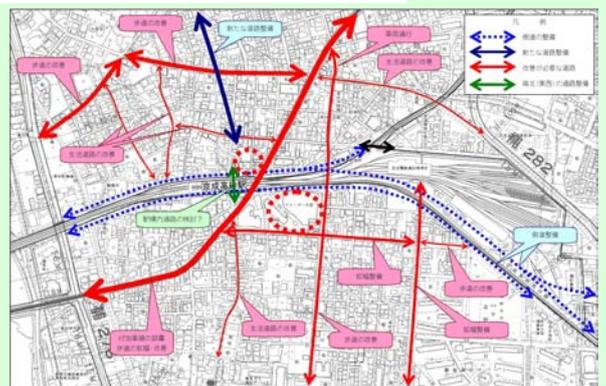
● まちづくり基本構想（案）の策定



・ 図面を囲んで駅前広場と道路網について検討

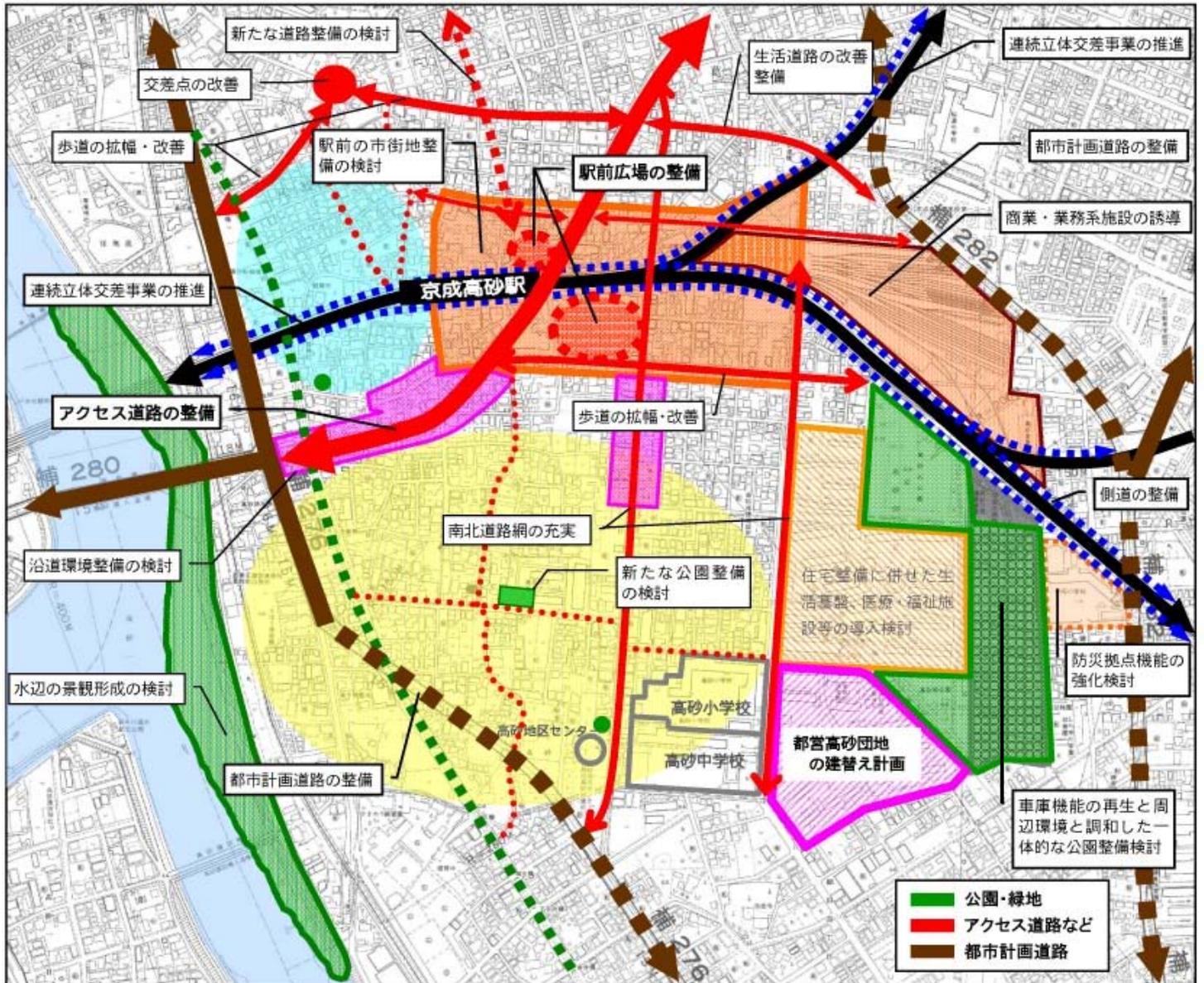


・ 専門家から模型を使った説明を聞き、車庫のあるまちづくりを検討



・ 良好な住環境に寄与する車庫のあり方として、車庫上部の公園化整備を検討

<まちづくり基本構想（案）>



まちづくりの今後の進め方

【平成 20 年度まちづくり委員会の活動】

協議会では、まちづくり基本構想の具体化に向けて、新たに 20 年度のまちづくり委員会を立ち上げています。駅前広場や駅周辺のまちづくりの検討を行う「(仮称)賑わいまちづくり分科会」と防災機能の向上やまちの再生、高砂車庫の取扱いなどの検討を行う「(仮称)安全・快適まちづくり分科会」において、具体的な検討を進めていきたいと考えています。

まちづくり委員会【平成20年度】
 ※ 事例の視察やエリア全体のまちづくりの検討、取りまとめ作業 など

(仮称) 賑わいまちづくり分科会
 ※ 駅前広場や広場につながる道路の整備など

(仮称) 安全・快適まちづくり分科会
 ※ 防災機能の向上・まちの再生など

都市基盤整備 鉄道

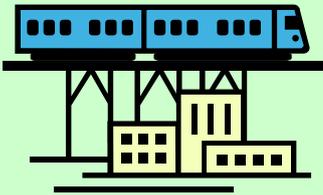
- ・連続立体交差事業の早期事業化を実現し、踏切解消と駅機能の充実を図ります。
- ・連続立体交差事業の実現とともに、周辺環境に配慮した車庫機能の再生を検討します。

都市基盤整備 道路



- ・連立事業に合わせ、鉄道とバスやタクシー等との交通結節点機能を強化するため、駅前広場や広場と繋がるアクセス道路を整備します。
- ・連立事業に合わせ、都市計画道路などの道路ネットワークの充実を図ります。
- ・連立事業に合わせ、鉄道に並行した側道を整備します。
- ・都市計画道路の整備に伴って通過交通が排除できることから、地区内生活道路は歩行者や自転車にもやさしい道路とするため、歩道の改善・拡幅を検討します。

市街地整備 まちづくり



- ・まちの顔となる駅前エリアやアクセス道路の沿道では、賑わいと魅力あふれる商業環境の形成を図ります。
- ・高砂団地の建替え計画を推進するとともに、創出用地については将来のまちづくりに資する活用を目指します。
- ・細街路の拡幅整備や公園の整備などによって、密集市街地の環境改善及び防災性の向上を図ります。
- ・周辺環境と調和する施設整備により、緑豊かな良好な住環境の形成を図り、防災施設の更新により防災拠点機能の強化を図ります。
- ・水辺を活かした景観形成を検討します。

まちづくりアンケートにご協力ください！

* 「まちづくり基本構想（案）に地域の皆様のご意見を反映させるため、高砂駅周辺（高砂2～5丁目）にお住まいの方々を対象とした“まちづくりアンケート”調査を行います。

- 対象地域：高砂2丁目～5丁目
- 実施時期：平成21年2月～3月



* アンケート調査票については、町会・自治会を通じて配布されますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

小学生の絵画コンクールの表彰式を行いました。

まちづくり報告会では、『未来の高砂』をテーマにした絵画を住吉・高砂両小学校に、夏休みの自由課題としてお願いしました。集まった作品は、高砂地区センターに展示して一般投票にて最優秀賞及び優秀賞を選出しました。作品の多くは、鉄道や踏切を題材にしたもので、「開かずの踏切」の早期解消が子供たちの将来の願いでもあることを再確認しました。

今回のコンクールを行うに際して、住吉・高砂小学校の皆様、ご父兄、京成電鉄、高砂地区センターのご協力を賜りました事をこの場をお借りして御礼申し上げます。



<最優秀賞>



<優秀賞>



平成20年度まちづくり委員会がスタートしました！

高砂地区開発協議会「まちづくり委員会」では、昨年度に取りまとめた「まちづくり基本構想（案）」を踏まえ、事例の視察や分科会での具体的な検討を行いながら『まちづくり基本計画（案）』を作成したいと考えています。

平成20年度第1回委員会（12月1日）では、まちづくり基本計画（案）の作成までの検討の進め方について確認しました。

引き続き開催した第2回委員会（12月12日）では、駅前広場の整備と再開発事業、駅周辺のまちづくりのルール化の事例として、小田急相模原駅周辺地区・経堂駅周辺地区を視察しました。



第1回委員会の様子



小田急相模原駅前の再開発ビル「ラクアルおださが」



地区計画を定めている経堂農大通り

開かずの踏切解消に向けて一歩前進！！

**「京成本線の京成高砂駅～江戸川駅間」
事業化検討候補に選ばれました！**

平成20年6月、東京都議会において、鉄道立体化の検討対象となっている20区間のうち、関連する道路整備計画やまちづくりへの取り組みの熟度などを踏まえ、5区間を新たに国の事業採択を目指す「事業候補区間」として位置づけたことが明らかにされ、その中に「高砂駅～江戸川駅間」が選ばれました。

私たち協議会では、これを一定の前進と受け止め、一日も早い「開かずの踏切の解消」「鉄道立体化の実現」に向け、さらに積極的な活動を行って参ります。